

カミノクレッセ



1987年5月30日生 牡 鹿毛
父:アンバーシャダイ
母:シヨウワロマン(母の父:コインドシルバー)
浦河・昭和牧場生産
調教師:工藤嘉見(栗東) 馬主:野上政次氏



記憶に残る万能戦士

1992年の天皇賞(春)。連覇を目指す長距離界の王者メジロマックイーン、そして無敗の二冠馬トウカイテイオーが参戦。ほとんどのファンの関心は、2強対決の行方に向けられていた。

14頭立て。そんなスターホースの前に、他の12頭は脇役に回らざるを得なかった。その中にカミノクレッセがいた。

3歳(旧4歳)の2月にデビュー。芝、ダートを問わず走り、ここまで24戦9勝。このうち8勝はダート戦であげたものだったが、5歳(旧6歳)を迎えたこの年、日経新春杯で初めての芝での勝利を重賞で飾ると、前哨戦の阪神大賞典でも2着。ただし、勝ち馬のメジロマックイーンには5馬身の差をつけられての完敗。4番人気とはいえ、単勝オッズは37.2倍。2強の間に割って入ると予想するファンは少なかった。

メジロパーマーが主導権を握って始まったレースは、長距離戦特有の坦々としたペースで進んでいった。メジロマックイーンは中団、その2、3馬身後方にトウカイテイオー。そして、直後にカミノクレッセは位置した。

2周目の向こう正面、坂の上りでメジロマックイーンがスパート。3コーナー過ぎで早くも先頭に立った。これを見たトウカイテイオーとカミノクレッセも追撃を開始したが、その脚色は明らかにカミノクレッセが勝っていた。直線入り口では2番手まで上がり、そのままメジロマックイーンに迫った。しかし、2馬身半及ばずの2着。栄冠は目の前を素通りしたが、多くのファンの予想を覆したカミノクレッセは、この後、一気に距離を短縮、春のマイル王決定戦、安田記念へと駒を進めた。

前走とは一転した速い流れに戸惑うこともなく、道中は11、12番手でレースを進め、直線で大外を突いてラストスパート。ムービースター、マルマツエースとの激しい2着争いは制したが、好位から一足先に抜け出していたヤマニンゼファーを捉えることはできなかった。

さらに1番人気に支持された宝塚記念でも、伏兵メジロパーマーに逃げ切りを許して2着。またしても手にしたのは銀メダルだった。

春の古馬GIレースで3戦連続2着したカミノクレッセ。当時を知るファンにとって、彼は、大舞台を盛り上げてくれたトップクラスのバイプレーヤーだった。同時に、芝、ダート、そして距離を問わず結果を残したオールラウンドプレーヤーとしても、その名は記憶の中に深く刻まれている。

1992年★第39回日経新春杯(GII) 後続に2馬身差をつけ、カミノクレッセが快勝。“運送きの大器”が、デビュー23戦目にしてようやく重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1990. 2. 25	阪神	4歳新馬	芝1600	2	1:40.5	安達昭夫
3. 11	阪神	4歳新馬	ダ1800	3	1:55.6	安達昭夫
3. 17	阪神	4歳新馬	ダ1700	2	1:48.6	安達昭夫
4. 1	阪神	4歳未勝利	ダ1700	1	1:46.6	安達昭夫
9. 16	中京	4歳以上500万円以下	ダ1700	1	1:48.5	武 豊
10. 6	京都	4歳以上900万円以下	ダ1800	5	1:54.6	武 豊
10. 21	京都	鳴滝特別	芝2400	12	2:27.7	田原成貴
11. 11	京都	4歳以上900万円以下	ダ1400	1	1:25.7	武 豊
11. 24	京都	花園S	ダ1400	5	1:24.8	田島良保
12. 15	京都	洛北S	芝1400	7	1:22.4	田島良保
1991. 1. 6	京都	門松S	ダ1400	3	1:25.0	田島良保
1. 26	京都	羅生門S	ダ1400	2	1:23.8	田島良保
2. 10	京都	榎原S	ダ1800	1	1:50.6	南井克巳
3. 3	小倉	中日新聞杯(GIII)	芝1800	4	1:49.2	内山正博
3. 16	中京	プロキオンS	ダ1700	7	1:44.5	河内 洋
4. 14	京都	陽春S	芝1600	11	1:35.5	内山正博
6. 16	札幌	エルムS	ダ1700	1	1:45.6	南井克巳
6. 30	札幌	札幌記念(GIII)	芝2000	3	2:01.1	南井克巳
7. 27	札幌	タイムス杯	ダ1700	1	1:43.2	南井克巳
8. 25	函館	シーサイドS	ダ1700	1	1:44.8	南井克巳
10. 10	札幌	ブリーダーズゴールドC	ダ2400	1	2:32.0	南井克巳
10. 27	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	3	2:04.0	南井克巳
1992. 1. 26	京都	日経新春杯(GII)	芝2200	1	2:15.2	南井克巳
3. 15	阪神	阪神大賞典(GII)	芝3000	2	3:14.3	南井克巳
4. 26	京都	天皇賞(春)(GI)	芝3200	2	3:20.4	田島信行
5. 17	東京	安田記念(GI)	芝1600	2	1:33.9	南井克巳
6. 14	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	2	2:19.1	南井克巳
1993. 1. 24	京都	日経新春杯(GII)	芝2200	10	2:15.0	南井克巳
5. 16	東京	安田記念(GI)	芝1600	8	1:33.9	南井克巳
10. 31	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	11	2:00.2	南井克巳
11. 2	東京	アルゼンチン共和国杯(GII)	芝2500	7	2:33.4	南井克巳

※レース名は当時の表記による



1992年★第105回天皇賞(春)(GI) カミノクレッセ(帽色・黄)は最後までメジロマックイーン(帽色・青)に食い下がったが、“長距離王”の牙城を崩すことはできなかった。